

「(仮称) 町田市産業振興計画 19-28」第5回策定検討委員会 議事要旨

日 時	2018年10月10日(水) 17:00-19:00
場 所	町田市庁舎5階 5-3会議室
出席者	大久保委員長、糸久副委員長、佐々木委員、太細委員、小山委員、安藤委員 (委員以外の出席者) 小田急電鉄株式会社 西村氏(露木委員代理) 町田商工会議所 青島氏(佐藤委員代理)
事務局	経済観光部長 小池、産業政策課長 井上、産業政策課 佐藤、山野上、渡邊、五十嵐

(1) 第4回委員会の振り返り

- ・事務局から第4回委員会の議事要旨を報告。

(2) 議題

【計画素案について】

- ・資料1に基づき、事務局から計画素案の事務局案を説明。

■糸久副委員長

- ・表紙に記載されているキャッチフレーズは、「チャレンジするなら TOKYO の町田から！」よりも「チャレンジするなら TOKYO 町田から！」の方が、語感がよいのではないか。あえて、「TOKYO “の” 町田から」としている理由は何かあるのか。

■事務局

- ・町田は東京にあるということを強調するという意味もあり「TOKYO の町田」としている。

■安藤委員

- ・個人的には、「TOKYO 町田」とするとスマートにはなるが、「TOKYO の町田」の方が、町田市の存在感が際立っているように感じられた。

■青島氏

- ・誰に向けたものなのかによってキャッチフレーズも変わってくると思う。この計画が、町田市内の事業者に対して「自分たちの地域で頑張ろう」ということを意識づけるものであれば「TOKYO 町田」の方がよく、一方で日本全国の創業や起業を希望する人に対するものであれば「TOKYO の町田」の方がよいという気がする。また、「チャレンジするなら」という言葉には、その裏に「チャレンジする、しない」という選択肢がみえるので、例えば、「チャレンジは TOKYO 町田から」等、チャレンジすることを前提としたキャッチフレーズがよいと思う。

■大久保委員長

- ・ロゴマークを考えると、「チャレンジ@町田.TOKYO」などもよいのではないかと思う。

■太細委員

- ・読み手を意識してキャッチフレーズを決めるのは大事だと思う。基本的には町田市民が読み手であることや、語感のよさ等を踏まえると「TOKYO 町田」の方がよいと思ったが、東京であることを意識させたいという意図があるのであれば、「TOKYO の町田」とするのがよいと思う。また、最終的にはキャッチフレーズと4つの柱、将来像が結びついている必要があるのではないか。

■糸久副員長

- ・「チャレンジするなら TOKYO の町田から！」というキャッチフレーズに対して、町田の「ココが良い」という部分を一言で伝えられると、なぜ町田でチャレンジするのかということが分かってよいと思う。

■事務局

- ・例えば、“立ち上げる”チャレンジについては、町田だと都心よりも創業のハードルが低いこと、“拓げる”チャレンジについては、事業間連携が活発という町田の特徴を活かすこと等、チャレンジごとに町田の特徴を活かした事業内容にしたいと考えているが、4つのチャレンジ全てを包括して、町田の魅力を一言で伝えるとなると難しい。

■糸久副員長

- ・今の発言にもあったように、チャレンジごとに町田の特徴が表れているとよいと思う。

■小山委員

- ・チャレンジする際にはリスクが伴うが、そのリスクが町田だと緩和できる等、町田でチャレンジすることの裏付けが一目で分かるかよいのではないか。

■大久保委員長

- ・これまでの意見を踏まえ、町田の魅力を素案に反映し、なぜチャレンジするなら町田なのかという点について分かりやすく示してほしい。

■佐々木委員

- ・素案 12 ページに記載されている各チャレンジの指標について、“拓げる”チャレンジの指標は「1事業所あたりの付加価値額の増加」となっていて、“立ち上げる”チャレンジの指標は「開業率の上昇」となっているが、開業率が上がると小規模な事業所が増え、1事業所あたり付加価値額は減ることになり、指標同士が矛盾していることにならないか。可能であれば、中小企業を対象とする、業歴が5年以上の事業所を対象とする等、フィルターを設ける必要があるのではないか。

■事務局

- ・ご指摘の通り、大企業の有無や業歴によって左右される指標であることは承知しているものの、各チャレンジの状況を測る指標としては適切であると考えている。

■小山委員

- ・市として、今後どのような方向性の産業を増やしていきたいという意向なのか。これまで「商都町田」と言われてきたことから、今後も商業を強化することを目指すのか、それとも、町田市で起業・創業したいという多様な産業を受け入れて、新しい方向を目指すという意向なのか教えてほしい。

■事務局

- ・町田の活性化に向けて、ネット通販等が普及していく中で、これまで通り町田市で買い物をしてもらうというのはなかなか厳しく、町田市の産業構造としてモノ消費からコト消費への転換が必要であると考えている。そのため、商業を含めたあらゆる産業を受け入れて、新しい方向を目指したいと考えている。

■大久保委員長

- ・その他、素案に対する意見については、後ほど個別にご連絡いただきたい。

■事務局

- ・10月15日から行うパブリックコメントまで、今日いただいた意見も含めて検討し、可能な限り対応したいが、修正等に時間を要する内容についてはパブリックコメントまでに対応できない可能性があることをご了承いただきたい。

【実行計画に記載する事業の確認について】

- ・資料2に基づき、事務局から実行計画に記載する事業案を説明。

(全体を通して)

■大久保委員長

- ・資料の内容はまとまっていると思うが、キーワードに線を引いて強調する等、見やすさを工夫するとよいのではないか。

■事務局

- ・今後、計画書としてまとめる際には、見やすさについても検討していきたい。

■大久保委員長

- ・事業一覧に記載のある実施主体について、市や商工会議所の記載はあるものの、大学の記載がみられない。町田の魅力のひとつに大学が多いことが挙げられるので、施策の方向性として産学官連携等も考えられると思うが、どうだろうか。

■事務局

- ・今回提示している事業一覧には記載されていないが、これまでの計画の中にも産学官連携については記載されており、事務局としても大学との連携は積極的にとっていきたいと考えているので、今後、具体的な施策として打ち出していくことになると思われる。

■糸久副員長

・個別の施策において、他都市との差別化のポイントはどこか。

■佐々木委員

・事業者等の支援を行っている立場からすると、他都市に比べてきめ細かい支援を行っていることは町田の特徴だと思う。また、町田には面白い人が集積しているというのも特徴だと思う。

■西村氏

・他地域と比較してもここまできめ細かい支援を行っている地域はまずないので、ビジネスプランが明確になっている人ならば、町田で起業したいと思う人も多いのではないか。一方で、女性や若い人が起業したいと思うような、町田ならではの魅力というのはあまり見えてこないで、何か特徴が出せるとよいと思う。

■糸久副員長

・キャッチフレーズに対して、なぜ町田だとチャレンジができるのかという簡単な説明があると、町田で起業することの魅力が伝えられるのでよいと思う。

■大久保委員長

・これまでにでてきた中で、「住んで良かったまち」、「活気のあるまち」等はよいキーワードだと思う。また、同規模の他都市等と比較して町田の魅力を引き立たせるという方法もあるのではないか。

■佐々木委員

・職住接近等も町田の魅力だと思う。

■大久保委員長

・他にも町田の魅力を伝えるのに良いキーワード等があれば、個別に事務局にご連絡いただきたい。

■太細委員

・各チャレンジの指標について、セミナーの開催等、何に取り組んだかという「入り口」に相当する指標と、実際に設備導入が進んだかどうか等、具体的な支援を行った結果として表れてくる「出口」に相当する指標があるが、できるだけ後者の指標で成果を管理するのがよいのではないか。

■大久保委員長

・捉え方にもよるのではないかと思う。例えば、「起業・創業の魅力を伝えるセミナーの開催」はきっかけづくりだが、「産業財産権に関するセミナーの開催等」だと、セミナーの開催以外の内容も含まれているため、事業に直接関わる具体的な支援となるのではないか。これまでの意見を踏まえて、指標をご確認いただきたい。

(“立ち上げる”チャレンジ について)

■佐々木委員

・実行計画に関する資料の 1 ページ、「起業・創業支援の担い手の拡充」の取り組み概要に記載されて

いる「施設の整備等を支援する制度」とは、具体的にどのような取り組みを指すのか。

■事務局

- ・創業支援に取り組む民間事業者が、町田市内に創業支援のための施設を整備する際等に必要な資金を調達する際の支援などを想定している。

(“拡げる” チャレンジ について)

■大久保委員長

- ・「新分野・新技術への進出を後押し」について、素案の10ページ(Society5.0)に記載されているようなキーワードが出てきていない。例えば、「スマート化」等のキーワードが事業の中にも盛り込まれると面白いのではないかと思う。

■糸久副員長

- ・「EC(電子商取引)を活用した販路拡大の支援」とあるが、最近では、キャッシュレスや電子マネー、QRコード決済等に関する実証実験も行われ始めている。「EC」という言葉ではそれらすべてを包含できていないように思われるが、その辺りの言葉の使い分けはどのようになっているのか。

■事務局

- ・ここで言うECの活用とは、ネット通販の活用の中で、販路拡大を目指した支援を想定している。なお、QRコード決済等のキャッシュレス化については、インバウンド客の取り込みを目指した施策のひとつとして、ECの活用とは別の施策として取り上げている。

■糸久副員長

- ・最近では、キャッシュレス化等買い物に関連する新しい動きもあるので、事業として主に取り上げるのがECの活用推進のみでよいのかという疑問がある。

■事務局

- ・キャッシュレス化も事業に含めたいと考えてはいるが、現在はQRコード決済等がまだ実証実験の段階で、今回の実行計画の期間が5年であることを踏まえると、どこまで具体的に書くのか表現を考えているところである。ただ、町田は商業で育ってきたまちであることを踏まえると、キャッシュレス化は積極的に進めたいという思いもあるので、括弧書きではあるが今回の計画に記載させていただいたところである。書き方については、いただいたご指摘を踏まえて再度検討したい。

■糸久副員長

- ・開放特許について、大企業であれば特許を開放している例もみられるが、町田市の企業で今後特許を開放する予定のある、もしくはすでに開放している企業はあるのか。また、開放特許とオープンイノベーションは概念としては同じようなものだが、それぞれ個別事業としている理由は何か。

■事務局

- ・まだ計画段階なので、どういった企業の開放特許を活用するのかについて具体的な検討はできていな

いが、必ずしも町田市の企業である必要はなく、市外の大企業の開放特許を、町田市内の中小企業に活用してもらいたいという考えもある。開放特許とオープンイノベーションについては、オープンイノベーションの1つの手法として開放特許があると捉えており、町田市としては知的財産の活用に力を入れていきたいと考えているため、開放特許を個別事業として取り上げた。

(“つなぐ” チャレンジ について)

■糸久副員長

- ・「ITを活用した生産性向上の支援」とあるが、「IT」という表現は既に古びたものになっているという印象がある。本計画が10年先を見据えた計画であることを踏まえると、「IoT」や「AI」という表現がよいのではないか。

(ビジネスしやすく働きやすいまちづくり について)

■安藤委員

- ・「事業者サポート体制の充実」について、指標として「事業者サポート体制の構築に向けた調査・検討」とあるが、現在どのようなことを行っていて、今後拡充支援としてどのようなことを行っていこうと想定しているのか。

■事務局

- ・現在でも各主体の連携は図られているが、今後は、この計画を推進していくにあたって、どのような体制を構築するのが望ましいのかという点について、改めて検討したいと考えている。

■糸久副員長

- ・「町田で働く魅力の発信」について、「魅力」とは、「町田で働く」ことについてなのか、それとも「働く」ことそのものについてなのか。

■事務局

- ・若者については働くことについての魅力を、多様な世代については町田で働くことの魅力を発信したいと考えている。

■大久保委員長

- ・「学生を対象としたインターンシップ」とは具体的にどのような内容を想定しているのか。

■事務局

- ・創業支援の対象を若い人まで広げたいという思いがあり、インターンシップを通して事業者と若い人との交流を増やし、創業のきっかけづくりとすることを意図した事業となっている。

■太細委員

- ・「市内におけるオフィスや工場の新設・規模拡大を支援」について、以前の議論で、企業誘致に向けて、町田の交通の便の良さを活かしたサテライトオフィスやテレワークセンターの導入に関する意見がでていたと思うが、今回の事業にそういった内容は入らないのか。

■事務局

- ・今回の実行計画の期間が5年となっており、今後、事業がどのように進捗していくかについて明確ではないので、ここでは大まかな方針についてのみ記載したいと考えている。

(3) 報告

- ・資料3に基づいて、事務局からパブリックコメントの実施について説明。

(4) その他

- ・事務局から次回の委員会の日程等についてご案内。

■事務局

- ・次回は、1月上旬に第6回策定検討委員会を行い、最終的な計画案及び実行計画案について確認していただく予定である。